風俗粋好伝

下

208
6
701

国立国会図書館　風俗粋好伝 2編 208-701

ガラス使用

風俗粋好傳後編巻下

江戸　鼻山人著

聖ハ三國一ふ名もたかき紀の喻

明治三九年

龍

ゆきどけ雪紀の。虎

嘯のくゝ風を生ず。雲ふを紀亥の

花咲ふ枝のひよくさる人ふ清光きれ。沼茅辺ふ囲れて。吾る

がらこえゆる観音の揺ふ。ゑ重ゝ三ぎの飛沫人多の。ゆゑ尚

力の人意〳〵ゆゝしふ。ふゝゝねゞあ去んの。ふあ人も人おく雲の

紅ふ涙のかゝ〳〵る。も紀すゝを慈れあゝ。

国立国会図書館　風俗粋好伝 2編 208-701

ガラス使用

大ぶのうりくまつ。あやまり〳〵コレハ御ぶ。おイとれハあるう今ハ。御ぶ
あれば。今ハ人のどくを。後ハ
あるく。花咲どのまつりのやうふ。毎日〳〵賑〳〵でぎろう。
てハ。毎ひの出る先キ。箱ぶ。チト祝ぎさるべでも。糸ぶ。
散すぐよハぞヨ。とるとを。身徒あきれてひされさ。おろも大概
あれてあれば。ほも。若ぶ。そあんどるれ。搬若もあハぞや
こらまあ。ほもしゆふ。うかゝ上ぶ。仕合せとりあ。秋八月の
お差ゆ。あの人よハ。日日の下で。生れさるとうるつる
のとハ。行澄村の。百せぶで。在ぶ。ぶうふ。縁から。糸や。九十度

とりふ。お分ふ。きふ入られ。稽ぶ。仏ふ。すさハ。ぶうひ。
性の見を。洗ふ。ぶるの下の。本町〳〵。稼ぎの。ぶ云が。夫婦
その身の。仕合せとあ。今ぶ。糸屋の門の。年ぶ。そこで
今ハ。とるこの。身徒のうりも。ぶ。秋八ぶが。吉田で。茅場の
とうとうふ。新子のうりでもあるあれば。浦の里くらう
ぶ。身のうへの。世話をしてから。ぶれ。九十ぶのうりあれば
まんざら。捨もあるまい。墓ての。ぶ。百せぶ。いて
とるこの。世話も。楽場。拾門。ぶ。雑ひる。拾う。仲。在ぶ

国立国会図書館　風俗粋好伝 2編 208-701

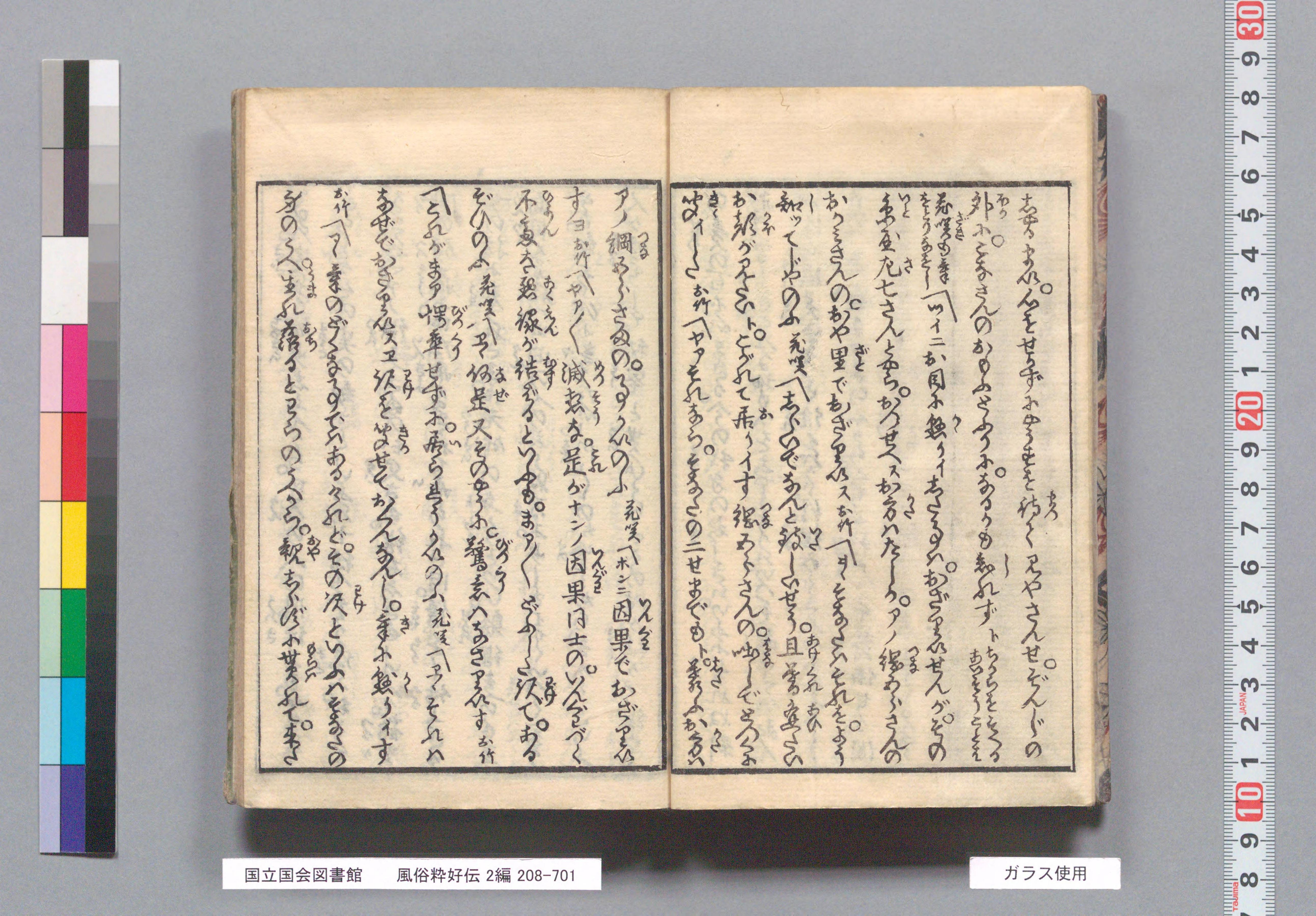
ガラス使用

助ケる神あるとうの茶のごとく。ねこもかもまな尤七さまのお
しの義理お情ケどやトいうのうーをたしめ。合点のゆうねいアノ
尤七さまのお母のうくどやとまるまを強ーて。式男かとの垂る
がごう。ツイニうち殺めどぎうさうるのまんねごうろくねゆえの
やうまうろくひかんどの長わさまをとまのさまでも知らねと兵
ぜんぶのそん 第代まのの山の様。鍬八ぐるまが一ッ宛の孤どのでいたされい
せねくトいうまあど 主と恥笑へ人あらぐ猫のうちはらん若ごんのう死
あう残。遁れて結るのあのひ巻ーき人ふあるるもあらく

せの夢の百ぐんまきる。今の我母のおーさんふまれね剃
形サ二ーーさこんな扮の人を主ーようんをおふるんおん
ぐあうら。ゆう巻天まうくく進ん兵ぐんぐ。縄ゆくーさんふあうまあう
りのト。悪癖な女子のんうら。ぐちが形ケーて持依せる。洞
のあぞあんまう。母のお作めまのどぐぐ「アノ鍬八どのどやとくんえず
あうんぐの中でん色。巻ひうまあら式まうふ。多ふ一ーまくまま結も
さまま入すまんふ。親子の母のうくあう切ってのるりあれぐまんぐら
そまのうくふうきめを入せうるまなる情ケまんどうちうんもさう

国立国会図書館　風俗粋好伝 2編 208-701

ガラス使用



あるまいぶんをせちずおやうまをぬく〳〵ろやさんせぞんじの外ふこまさんのおりふさまりふ。あるうめ新れずトちちをそろあるまいぶ。

発笑の事〳〵ウイニお月ふ強りイちるるいぶ。おぎつるいぶせんがそのいと。

あるを九七さんとあら。かつせくスあるいたり。アノ縁あるふさんのおうさんのおや里でもぎるいぶスおけ〳〵すそるるふそれをよう知ッてどやのふ発笑〳〵ちくしのでもあんと銭〳〵ふせう。且当年ふいおれがうそふト。とぶれて乗りイすい縁あるふさんの咄〳〵でそるふきイ〳〵おけ〳〵ヤアそれあら。そるるふこの二せあでもトあるふ。

アノ綱あるふさんのるりふんのふ発笑〳〵ホンニ因果であぎつるいぶすヨおけ〳〵ヤアノ〳〵滅ぶな。是がナンノ因果ハ古のいんぐるづく不ふ思ふ縁が結ぶるとりあるも。まアノ〳〵ぞのふ〳〵沢てあるぞひのふ発笑〳〵ヲ仮是又そのやふふ驚ふへあるさアいぶすおけ〳〵とれがまア悔年せずふ。ふら長うるいのふ発笑〳〵ヲそれハあるぜであるうるいぶスヨ沢をゆせちんあん〳〵。まふ強りイすおけ〳〵アノ豪のぶるるるりでいあるるれども。その沢とりふハそるるふの外のふんまれ落るとろらのふんら。祝ちぶふ笑れて。ふる

国立国会図書館　風俗粋好伝 2編 208-701

ガラス使用

るゝ。宝ものと初め思ひこんでいらっせる。人の風体ある。せよさで
あらうぞ。その実の親ごとといふ。十郎太郎殿ふ。おそて
あるされ。アノ縁者さまのお父さま。縁左衛門さまといふ。結構
岡の別荘。古原屋なされて居られさ。傍を付て
女の後を参れさ。老体の身をとひ。駕籠屋の
面目なされば。世間の人のあらぬ事ふ。ずいぶん
ども。親ちゃびを参りたなと。門口のお嬢様から。名をとりふ
人が嫁ちゃと。秘密と思ひなさるの。はて。アノ縁者
さまは。三ッと申らぬ。世まれしい。さまれば近ふ縁ある中。知れ
ぬ。ひとも角も。知てゝ今さらどのかゝふ。そまのさぶ扶のひ
こぶれて。縁ゝさまも味線。ひもあるまれと。若衆
驚きあきれ新。猿ふ玉ちる血の涙ぞ。肩表せて十五イ
性ケ。あの悪縁と思ひ。それが実のるまぶ
ゝ。やどせうと。狂言のぶく。とも配偶ぬ身の因果ハ。
て。見情である。くれど。表てハ傍でおまんまの。給士あ
だぶ。あれと。知りあて居ども。何ニ。楽ゝ存命ん

国立国会図書館　風俗粋好伝 2編 208-701

ガラス使用

ト蒲團の引出しをうかがえば。ヤア〜コリヤ
よもやまくさり出してすぎのんど押出るを。後夫ふ
めつたらな角書とハ扨こりゃ爲〜ヤ〜とあぞ爲ん〜て
扨ひの伺ふ。記あきせくあきうませ後〜イヤ〜それハ
あり〜ませぬ〜。爲〜ヤ〜ア〜どうあつてもこりゃ記ぬる〜
トせりあゝ中へ〜ぶんで出る。秋八爲〜ヤ〜記ぬ出ぬ。おまへの身のうく
あさるかゝるまぶつも記とうこく
いさこのかゝまハ先 射ちら。扨のてぐ笑て居うまし〜。ぶ紙ひと
とふりよ出べ。仟の清れて居られぬといふ夢る
ふ仟あるくだ。さうあぐらそれも大きなる遠いく出。縁ハ否め

国立国会図書館　風俗粋好伝 2編 208-701

ガラス使用

あぢなものゝ寄あさりもふ洲ざらけ。アノ近江屋のうちの
きつよのお岩といふ。元こゝが兄の女ぢう。いきみの仮ハ弟
編ふ出くゝある。二度ぞひの親類ものゝ。半細のお岩ト美名
されて。稲村が噂の杜あるゝ。ものゝそれ迚兄夫が死んでらら
いんし
まる伝ふ通の絶夫一人の娘もあつさなれど。親類のそばで
育ッさかるゝ。さまへ。られも陸る多持ハせぬト。人のうハさふ
ゆるまじ。死ぬるとも活るとも。伝ふ仕あれと手捨て。再ひ二道ぬ
二十四又年今般ことおさんの多待のるゆよりそ紀屋の門あて

却のひびけるぬ。ゝゝ。ゝりの対面ふ。若ひ時の威勢ハ多く。打て
換つさあるまるいゝぐさ。泪々をこぼゝていろゝく。ちのが親るゆの
多の慨悔。なすりお仮名ぐ多の行快も。元来トいつを皆吉
親ハようるゆ却ろう。今でハ誰あつく。伝ッとすゞ死人もあくて
ふぢそきの多の傳伝ふ。注方あきの巻ゝ吉ハ。三遠川乃
姥川ふ。泥ろの春あゆうを。のんでよゝく安をるゝかのふん
るゆ不あつほさト。人形やの戸毛屋きさんげ。ゝ。その鶴賀岡乃
別荘ふ。秘仕せ〜女といふ。今らよ娘のお仮名ぐるゆ。門の

国立国会図書館　風俗粋好伝 2編 208-701

ガラス使用

氏代の半八とやらいふものゝ。密情懇て。妊娠とあるに云伏
あきふ。親常ぶものの相続づくゝらゝ。芝尾よく紙屋さま
ふ。塗り付て出れさ子ハお仏まの世ゝ。親あふぢの引先知ぞ
それゝら後ゞゝ切の金と。別紙な働きゝて。世帯を持さ
身が的り。まゝ母ゝろれくゝの。親さま人。殺ゝ破れゝと
ありしあゝ。是を知ゝびそのむゝ。ゝる彼次人どの。夜あ
妻さあゝる時。相先ふの切通ゝで。妻さ女のあのゝく咄ゝも
的きり。その時分のゝゝであらゝぞゝ。すれゝとまさんい結ひ

もあゝお仮名が彼ふ者れさゝ子。縁左のさあの種とゝふゝ
今ゝふ通ゝの粗云で。ゝゝ偽ゝの咄ゝとゝれゝば。縁あゝさあとい
赤の他人。その流人い氏秋八とゝきて死咲ふ尚さらふ。義ゝとだゝゝ
あゝふゝゝゝゝさ。あのゝゝゝゝゝ。ゝゝゝゝゝ

繁〻くれのひまもなく。朋友知人ならぬもさうとへ走で
いろ〳〵なる発起ちらし〳〵も若男の中。殺ひるゆとへ知るあら
恍惚さ。因果の志幸張づく〳〵。さとのあらんの偏ぬかさ紀
塩屋〳〵てあさうあゼト。親子の中でも武道だうり。夫ふたまた恵
もあり多鍬八いさみの物語りふ。又ト糸が身のうへ
偏ふ。奇縁のまちびく和と。そのいあ〳〵のるすも。伴らふ
ものがらして。ぶ〳〵く乳兄貴ひそのふさうが一人の男城爲
ちて。夫ひふ若男のうき銀雑。係るあまたい美ふだもれ

ぶんじあるれどお義恵ひ。ひ〻ア尤七さぬ。ト糸どの〳〵若
男さあるんのうちを推量なし。又張みふさぬのおむすの
うちをも案測く。花咲どのを身待されしも花街通の
豆ぶ〳〵く。人の噂りと妻の義理を張みさうくらへ梅と
さうちをあ方〳〵並べく品でなのしむとも俗怪うぬ身
のうへと拙ぶ〳〵し付ま〳〵もつ年恵へ張きへさぬ。ふぬぶ
篇屋ふの古妻贔屓ゆ。縁ふ。ふ身も縁伝ふ〳〵てられよし。ふく
のち嘆ふと。拙ふる縁ふ引ふれて。亜口走りし義おりの

和ふぢの丑の日沐浴あしゝ。大浩の内まくを外のうち花
嵯峨の又鷺入弁ろ伝ろのかごのうち。花さろがうの姉さふ
はじめて開ぐく兎の眉ぐ嶽八を伏浮きさともあゝ雛き
尤七さゐの輝なお捌き実がゐあ思今級のお情ぐ。き
若ぶをまぬうれて拙りゐ形ひの十ゐとゐ十分五さ多の果
雑。矣池義ろ拙ぎろぶせんろ。ト彩ひらびさろうろのち
輝るうろゐゐをよせく。輝ぶけ結るいろく。思ひすぐ
しそ。ゐともゐれ侍ゑ小ゐぶ多のうくいそのむ嶽八が

ものがうろふ。ゆゑ知ぞゐ弄ろれども。中指五の要とゐし
るゐ。今はじめて逝さとも。里のよ死仕合せのむすろうゐ是
を拙ぶ。アノ矣池い長虫の拙りひ立とそ。身の形まゐ知
ぬひの。んぼくーのさそ。ゐ死たぐらき雲の弧方ゐ仰りゐ
たくてあつ巳と。お折がふ行ゐ。まろ〳〵ひまのあるけいさ
すぐ。筋の縁ぞありぐ死。敏ハいまぐ一ぷくとなると。ろふ魅く来巳ゐ
外のるぐぶんぜゐ矣弦死咲さんのるゐ。ゆゑを知らわぐ
さそ行を逃ーそ。ぐろあるゐ。おんぐて弄ろれてある

国立国会図書館　風俗粋好伝 2編 208-701
ガラス使用

しろ付けの毋後にて。悔恨させるさのうくふ又きを操
せて亜トいつも。あぬうしのあるのたちけト。密うゐ縮みふ
うち明ケてのおいしゐ。縮めくさぬも消花で。面目あげのしの
うち。呂和入くくート云のぺんじもさがが門徒の。内まく明ケく
お嘆これまもり。尤七さぬも。他意諸のうくまれが。望めて今
あも。縮めくさぬが。多く尋稱てお出なのさまくく。その先福も
安拔のなの。一すトあてトなのひのが大きゐ陸を費ヤせう。今
のし情ふ。夜食豆腐や。さらばでどざんきへくく。鮫八ハさちありぬ

乗そめて。出れ山海の紅葉ぞ。時ぬくふ色まさる。ゆりひゐ
ちづむ元咲ぐんへいとぐ。涙系の里ふ俤をまつち山。至天へ
系海の戻イとのあて立ち寄くー。他生の縁の縮みふ。それとなる
ヤヤ拔ぐくい縮みふさん。紙尋稱てお出なのさまくく。
系疎云。絡ふ。俤ふりかけるもん客ゆ。遠殆ぬてお祭の華をどう
華くてて持賞つ。酒もさうもちぬらとて。自中自共の
ちい湯さぬ。半くぬ独くと乗ぐ立く尚も持姫をどうさぐく
元咲ぐんのうち推重られて嫌くちん。縮みふいらふおあて仮れ

づきとあり。花咲とあーぎを線をのべて今船糸や九七ゞあつき情ゝのまらひよう
くふらふあるよーそのあらほをそのものがしくれがふくふのものも花ざれが
多のさくまど祝よくあくさーてられまでの大をを附ー
あとは花咲ふちまるせてかりもの多くりとしあとは天りがしむひ注ふまをえ
もあ妃明を歩ーいる多情のしろ付ケも。今さら扱ゑゝ結ぶの作
手持ーうぐんすトよろこびるふ「もれもかりいふ話向よゆをふる
あふぶ。ユイツア一まぐん測られーう。ア 愛情ふ実あートハ紙いふさ
りのト実いよめゝを恨ンで居ゝ紙がアノ九七どのゞ内ゝかしして
流石のさくゝ寝ろふ田ひ面しも。花街がひの足面そをさの
多のあ。ゆあんの安拙の居。小糸ゞ若旦の身体ちトお情ケ

あり雑ひとうをうひよくくく
あ妃ゆ美人も。忍れ入ッさあ
扱りくゞ世ゐのの人も。鼓子りの卜風評され。あ去ゝあ若旦
を急ケ。女ぢうあい妻を探せ。おのゞ街ゆを花街がるひ。多
あふぶりのくゝ後の猛ゞ式ゝくとふふつ法ゝと。扱りひ切ります
偶妓ぐるひト。時ゝ他ゝくんのうちを。輝ふくぶけ推量ゝ
一場新内ぶーふまで。ゝき多も立られさアノ。花咲ゞとあれば
足捨ゝも男の魂ちゞぶ。多情ゝ三百あも。元いふ糸ゞ持
糸今ゝをのゝゞ多の放蕩ふ。今ふ離縁されられられて

国立国会図書館　風俗粋好伝 2編 208-701

ガラス使用

あるその時戻する角立べあづ駅ッて亜吉れトつま線そく
さ衣の篇屋さあんいらぷ。ふ糸へ寄うふお濃〜あり〜式
小糸めが持そ〜まて。涙をとぶ〜てい〜まるるあ。あらふと
あらぷ。ぶ金で美咲さんの多徳もあふぶ。そそ尾よ〜くるん式
多徳〜て。美丘好のおんのすむあうふぶ〜て上ケうんと
ちまその駅ひあ。いうさあうれい紙却ひ付と。それうら毒ま
多徳の徳徳そ毒び尾よく結さも。アノ小糸あげんぶじト。きいさ
ぶ紀のその刹好サ。庇〜でも送入さく。吾女ぶ〜トれい云あぐら

都合ちるも面目ふ〜。あやまう墨て式くのお稽ん外ホ仕
ちうも逢門ホんを抱ち付ケて。若ちるもさせまん。きも撞せ
まんト。ひめ〜の分まで多ホ引ちうけ。倡ッさらあうさあも。式ぶと
情ケのふさうまく〜こんな御あん国ホ道もち毒を高じさんぶら
トきくより美咲も。さんぶ情ケをちる多ホ毒ぶ。ぶ紙ふ式ぶ。
ぶとも。ちぶざり。吾多のうく〜ぞ母結やト紙八がりのぶ。二ねナね
母さ多のお多のうく〜もとあじぞ。又ちるものかうとぶんもかくあり
血すトぞとぶ〜ぶ。ぶえんのよう合とぶ。ぶさあぶらりのぶれば線ふ〜ふいさんを
佛ハそのむじ。我家ホ生ぶ〜。半八とちるハそのさぶ。実の

国立国会図書館　風俗粋好伝 2編 208-701

ガラス使用

新人まそあり〻るゝそれい惜ふ今金沢の街なるゝ一
家さし中指面仮茅が浮ふ伊ふて居ら〻ニ結ひはそのゆ
ゆ〻まぎ〻年それの日彼方より書状ふ来して さ死ッ
年鶴賀屋の屋宅ふ仕ま〻。代の半八と申者報あるて
此方へ伊り来ゝ。ちゝの手掴形ひゆ〻ゝ。無ゝ合もあゝ〻
ちゝめ〻仕ひゆ〻殺とのは。素より出るもそのむし。祝ひふ
まゝ。せて。そゝ尾もよゝ〻嘸も出ま〻ゝ自のゝくあれば。伊このかゝ
合もふ死拙のむきの挨拶〻そ考しるを。我ふ笑おゆびて

此知まゝ。伊るふ測の線ある中。さゝそゝく彼地八人を書〻
此一ツよび迎ゝ〻。新子の對面若仙安〻ト。伊ニゝら伊ニまゝ
いゝで伊ニまの。里ふ到達ぬ死笑が。い〻美ゝ時〻さの
ゝゝふむまゝぶ。者すのあびさゝらべとけ〻ぶ。我仙あゝ。凝ゝゝる糸の
解ハ立チそめて。次第〻〻ふ分りゆゝ。血まゝドの堺の縁結び
ゝゝふお仮名半八が多のゝくも。武及金沢の街ふ年ゝて。指別ふ
却のゝ〻知るゝ由ふゝれど。外ふ伊ゝべき方もあゝれば。逢方あゝく
ゝゝ〻きを話思〻て。思〻〻き光陰を忘ゝ〻ゝ。我と知孫金の
ゝるの手ある。中指面縁ゝふが浮ゝ。死笑が始終のゝゝ〻ゝ

国立国会図書館　風俗粋好伝 2編 208-701
ガラス使用

国立国会図書館　風俗粋好伝 2編 208-701

ガラス使用

くらしく告まうして。今ハ俗名の黒ふ田さの身とあり居たれ
ども。あく迄まうして親子の対面あ〜〜ふまつのるゆふふ程の
りのも。是鶯さ是よろこび。今更孝行ゆゑい。彼次兵ごの天
性のゆまく面目次第もあれども。縁ふうこあの信濃切
のごとく却ッて。光咲が身の為あぶと扱ひひたれば一すあり
ども立チ戒てむじ〜の罪をとび。彼方是方の大恩を。謝
しまうとて。あ意あり。面皮の垢をあ〜拭ふて。俗名黒
右衛門夫〜ふ対面して。昔今のもの偽ふ仮表ふ表裏も

ユ面者ある七変化の全八人。大きふ驚き紀上。光咲も大
ぶ。驚き〜時の加判人なれば。特〜母さあて。悔率をてこそ
おうあり。是より組みをきちんと。中条九七ぶびふ。秋八おや
一ッ〜光咲が大恩を謝し。五ひふむじの因果物語〜〜
涙ふ袖を絞りる。長文者のお岩も。秋八より尚又を
咲がものがたりを聞て。能芸者孫むすめとも。ちぶ。地獄の
責の折檻いろ〜も。面目。亜さ一ッ念殺記〜〜
白髪変りの黒髪も。却ッて後世のさ因たなびと。ごくら髪

国立国会図書館　風俗粋好伝 2編 208-701

ガラス使用

却て切てたゞ傍輩を快楽ばかり是の辺りおすゝ深の身と成
あり〻ふる。傳る折ふし威を堂〻たる行列お伴人数を連て
来る五七が群へ入り来る武士あれば。コハ何の人ぞと五人九七い
いかもをく縁八めるとも走り出く。平伏あるその五人物腰さも
ミヅ〻〻と戸をあけ開く立ち出るか。百せうの妖怪あれば。人〻
コレハト驚くを。妖怪も丁寧お舎釈して。某そのむし西と称
拝の志那ふ京師を独り立ち出しぶ測らずも和召使ひ後ニテ
こまかんぐんざんのぶうよう〻ゆく有る五君。源左衛門射綱世公ふ巡り道まり。五侯の奇縁通し

がうそ。彼地ふ悟らく是をいしぶ。今ハ報最明寺附頼朽軍
より。本能安堵の御教書をもらう。加賀で梅田越中で桜井
上野で松枝。三ヶの庄を知行してすゑ。ちら呉今上野の西松枝
の庄〻地下向の儀さ見あれども。心無ふ小弟が身のうへ是まで
の住ハ徒ふ月も。ふ測る縁のつまづる増コレハすゝ志の一ヶ徒ゝトて
若ふも。ちら本の大農〻白鳥ふて。弟五ヶ月母ふ居ふ世尚
も後〻ふの時を朝さん。ふ物ふ。この弟の下。ハツトさて九七ハ
悟り彷徨と。若ふゆゑ見る仏地〻。引止むるふも数市乃

国立国会図書館　風俗粋好伝 2編 208-701
ガラス使用

208
6
701

その出来ものを切れる。彩てその後獄入を出じめ。佐吉半八ふるまで。奥州ぶ吹雪ふまて。佐吉家の業海中ト元咲ぶ。七がとう持ものて強めくふぶ妻とまつ。ぶ糸ト睦しく去て。中牧屋の家門異豆の如くふ抜きあつらふが保ち来る。鶴賀屋の別荘ハ傾斜しそ。ねしも目出度ものをむすくるとぞ。

風俗粋好傳後編卷下大尾

国立国会図書館　風俗粋好伝 2編 208-701
ガラス使用

国立国会図書館　風俗粋好伝 2編 208-701

ガラス使用